

6年制薬学部教育における基礎学力向上のための学習支援の効果

○江頭 昌志¹, 齋藤 まど香¹, 張替 直輝¹, 川崎 郁勇¹, 黒田 幸弘¹,
山本 いづみ¹(¹武庫川女大薬)

【目的】近年、高校での理系科目の履修状況や入試制度の多様化により、基礎学力が十分についていないままに専門教育科目を履修する学生が増えてきており、専門教育科目の修得に困難を来す例が増加している。そこで本学では、2007年度よりリメディアル教育の一環として、入学時の成績下位者に数学、化学の演習を行い、基礎学力をつけると共に学習意欲を高めるよう支援を行ってきた。今までも新入生学習支援の効果に関する報告はなされてきたが、上級学年まで追跡調査し、検証した例はない。本発表では、演習の到達度とその後の成績との関係を過去2年間にわたって分析し、演習の効果について報告する。

【方法】1年次生を対象に数学と化学のテストを行い、成績の上から順にⅠ～Ⅳ群に分けⅣ群を演習対象者として演習(6回程度)を行った。演習では、学生が自ら問題を解くことを基本としたが、解らない箇所は学生同士で互いに教えあい、また必要に応じて教員が指導するという形式をとった。演習終了後Ⅳ群を演習対象者で課題が終了した者(Ⅳ-a群)、演習対象者で終了しなかった者(Ⅳ-b群)の2群に分け、それぞれのグループの定期試験の結果(未修得単位数、GPA)を追跡調査し、当該学年の平均値と比較した。

【結果および考察】Ⅳ-a群については、未修得科目数、GPA共にⅣ-b群よりも有意に差が認められた。また、Ⅳ-a群は、年度によって差はあるもののおおむねⅢ群や学年平均よりも良い成績であった。このことから、初年度に基礎学力をつけ学習意欲を高めることで、翌年以降の成績にも良い影響を与えることができたと推察される。